

神戸市立平野小学校

平成27年2月27日



学校だより



3月号

感謝・思い出を大切に 新しい出発

いよいよ、平野小学校最後の月。閉校式も直前となりました。さまざまな書物や地域の方々のお話を通して、創設当時の100年間を振り返りますと、今、元気に学校生活を送らせていただいていることに幸せを感じます。あるとき、地域の方が、子供たちに、「100年の間、大きな3つの被害にあっています。」と話してくださいました。神戸大空襲、阪神大水害、阪神淡路大震災です。そうした苦難を乗り越えて、現在に至っているということです。そして、大災害やそれを乗り越えた人々の苦勞を平野小学校は知っているということです。どんな時も、平野小学校に学ぶ子供たちのことを考えてくださっていた様子がうかがえました。

また、平野の街は、「平清盛ゆかりの郷」として知られ、清盛にまつわる地域行事が行われています。さらには、祇園神社をはじめ多くの史跡も見られ、歴史を感じます。市電も通り、古くから商業の街として栄えた平野の街。街の発展と共に、人口がどんどん増加していったことがうかがえます。それに伴い児童数も増加し、2300人以上の子供たちが学んでいたことを知り、驚きをおぼせません。当然、校舎も次々と増築・改築が繰り返されています。それが、昭和30年をピークに減少していき、現在、児童数は、259名となり、閉校となったのです。

歴史が古いだけに、平野小学校に関わりのある方々の思いは、さまざまでしょう。1年生には1年間の思い出、6年生には6年間の思い出、保護者や地域の方々には、学校行事や地域行事・社会状況につながる思い出と、関わった年数だけ思い出の数も内容も違います。しかし、一人一人の大切な思い出は、平野小学校の名前と共に、いつまでも心に残ることと思います。そして、子供たちは、平野小学校で学んだことを生かしながら、新しい環境の中で、新しいつながりを築き、成長してくれることと信じています。「閉校」という響きはさびしいです。しかし、同時に新しい出発を表しています。今後は、「神戸祇園小学校」にご理解ご支援を賜りますよう、お願いいたします。

最後になりましたが、いかなる時も今日まで、「子供たちの健やかな成長」を願ってご支援くださった方々に、厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

校長 小川 信子